

「新研究」の活用事例

この連載では、全国各地の中学校でお聞きした、補助教材を活用しながら、生徒のみなさんの学力向上に向けて工夫されている取り組みをご紹介します。

第9回目の今回は、「新研究」と「新研究ノート」「定着ノート」を活用し、2年生の後半から3年生にかけて、学習内容の定着・復習を充実させる取り組みをご紹介します。

事例

「新研究」と
「新研究ノート」「定着ノート」を活用し
学習の充実をはかる

長野県での「新研究」の取り組み事例

「新研究」と「新研究ノート」を基本に 入試に対応できる力を養う

長野県安曇野市立堀金中学校

長野県中部に位置する安曇野市は、目の前に北アルプスがそびえる美しい風景に恵まれた場所です。そんな環境のもと、堀金中学校は、「みんなで心通い合う学び舎づくり～自立と共生をめざして～」を教育理念として、「高めあう学び」「かわしあう挨拶」「響きあう歌声」「磨きあう清掃」の学校教育目標に日々取り組んでいます。

お話をうかがったのは
荻原 拓先生
(社会)



使用方法

導入

「新研究」は、2年生の12月から使用を開始します。最初に3年生の夏まで毎週提出する課題の範囲を示します（下：スケジュールの例を参照）。これで学習の見通しをつけさせます。

また、課題の内容と、折々のテストの出題範囲を一致させ、「この時期には、テストはこの範囲から出すよ」ということも伝えておきます。これによって、復習とテスト勉強が一緒にできますし、結果的に入試への対応力も身につきます。さらに家庭学習や宿題の評価にもつなげられます。

課題は「毎日」ではなく「毎週」と、週区切りに行っています。ほかの教科の対策や部活などもあるので、生徒が自分で学習計画を調整できるようにするためです。

令和3年度 3学年「社会の新研究」 課題スケジュール

【堀金中学校】

月	日	曜日	学習内容	AB	本体ページ	ノートページ
4	26	月	日本の家、フォロート集「時差」	B	31-33	14,15
	6	木	7 世界から見た日本の自然、人口	B	37	17
	6	木	7 「日本の雨風園」	B	39	17
	6	木	8 世界と日本の資源・産業、結びつき	B	44,45	19
5	6	木	9 九州地方、中国・西国地方	B	47,49	21
	6	木	16 天下統一	B	87	37
	10	月	7 近畿地方、中部地方	B	51,53	22,23
	17	木	14 近世社会の発展	A・B	88-91	38,39
	24	火	11 関東地方、東北地方、北海道地方	B	55,57,59	24,25
	31	月	7 「地形図の読み取り方」	B	38	17
	31	月	12 身近な地域の調べ方	B	65	27
	7	月	物 地理の調べ方のまとめ	B	60,61	25
	14	月	物 ふりかえりチェック「地理」	B	70,71	29
	21	月	物 ふりかえりチェック「世界地理」	B	66,67	27,28
6	28	月	物 ふりかえりチェック「日本地理」	B	68,69	28
	5	月	18 近代ヨーロッパと日本の関係	A・B	92-95	40,41
	12	月	19 近代日本の歩み	A・B	96-99	42,43
	20	月	20 近代までの文化	A・B	100-103	44,45

○「新研究ノート」に答えを記入する。2回目以降は、各自でノートを用意。
○提出方法：提出日の朝に、これまでの週末課題と同様に提出。

3年生の学習スケジュールの例。月ごとにその週に取り組む単元名とA/B問題の種類、本体ページ、ノートページを一覧でまとめています。本体ページとノートページをそれぞれ分けて示すことで、分かりやすくしています。

実践

「新研究」に掲載されている「A問題」「B問題」の違いを、最初にはっきり説明します。そのうえで、まずは何も見ないで問題に取り組みます。次に、分からなかった問題は教科書や新研究を見て解きます。最後に答え合わせをして解説を確認するまでが1サイクルです。

使いはじめの時期は「A問題」を、春休み以降に「B問題」を進めます。ですので、3年生の夏までで、1・2年の範囲は同じ単元に2回取り組んだことになります。



課題の提出とチェックは「新研究ノート」で行います。

テストとの関連

復習テストでは、「新研究」付録の図版データを活用し、同一問題か類題を自作しています。「新研究」にしっかり取り組めていれば、スタンダードな入試問題にはほぼ対応できる力がついています。

新学習指導要領では、自分で学習を調整できる力が重視されています。そこで、意欲のある生徒にはどんどん先に進めてもよいと伝えていますが、苦手意識がある子には、「このページをやろう」と具体的に計画を示し、それをやっておけば、テストの結果に結びつくことを知らせ、モチベーションを高めています。

「新研究」と「定着ノート」をベースに 入試後を見据えた自己調整力も身につける

長野県上伊那郡 箕輪町立箕輪中学校

長野県南部、上伊那郡にある箕輪町は、長野県でもっとも人口の多い町です（令和4年7月現在 24,628人）。同町には5つの公立小学校があり、卒業した児童の多くは町で1校ある箕輪中学校に進学します。

南信州の豊かな自然に恵まれた環境で、幼・小・中一貫した取り組みを町全体で行っています。

お話をうかがったのは
垣内豊久先生
(数学)



使用方法

導入

最初に「新研究」の使い方を明確に生徒に伝えています。基本問題から実戦レベルまで、自分のレベルに合わせて進められることや、日々の学習や長期休業中の課題になること、テスト対策としても活用することを共有します。

実践

3年生の始業式までの間、「新研究」の2年生までのA、A+問題を「定着ノート」で課題として出しています。塾で学習するのもよいのですが、まずは学校

数学新研究 学習状況

4/26

1組

A+

1	2	3	16	17
2	3	4	17	18
3	4	5	18	19
4	5	6	19	20
5	6	7	20	21
6	7	8	21	22
7	8	9	22	23
8	9	10	23	24
9	10	11	24	25
10	11	12	25	26
11	12	13	26	27
12	13	14	27	28
13	14	15	28	29
14	15	16	29	30
15	16	17	30	

私の 数学の学習目標

A+ 毎日勉強し入試まで
370点 定着 定着 定着 定着
60% 70% 80%

B

1	2	3	4	5	6	7	16	17
2	3	4	5	6	7	8	17	18
3	4	5	6	7	8	9	18	19
4	5	6	7	8	9	10	19	20
5	6	7	8	9	10	11	20	21
6	7	8	9	10	11	12	21	22
7	8	9	10	11	12	13	22	23
8	9	10	11	12	13	14	23	24
9	10	11	12	13	14	15	24	25
10	11	12	13	14	15	16	25	26
11	12	13	14	15	16	17	26	27
12	13	14	15	16	17	18	27	28
13	14	15	16	17	18	19	28	29
14	15	16	17	18	19	20	29	30
15	16	17	18	19	20	21	30	

一度取り組んだらマス目に斜線を入れ、学習を繰り返すごとに反対の斜線、縦線…と記入していきます。全部で6回まで繰り返し記入できます。

の教材をしっかりとやることを考えてほしいので、テストでも、「新研究」の問題をそのまま出題しています。

1回目の提出の後は、「夏休みまでに最低3回は繰り返そう」と、どんどん学習を進めるように指導しています。学習状況は、私自身が学生時代に作っていた進行表をアレンジした表を作成し、生徒に「見える化」して、励ましの材料としています。

テストとの関連

テストの返却時には、次のテストまでにどうやって学習していくかを生徒に考えてもらい、「リベンジ計画」として記入、提出させています。

新学習指導要領では、自分で学習を調整する力が大事だとされています。しかし、何も無いところからそれを考えるのは難しいです。そこで「まずは自分のことを分析しよう」と、ひとつのツールとして導入しています。

高校入学後は、自分で学習をやる力がついていなければ、何も進めることができません。今の段階で、やり方の一例を示してあげたいと思っています。

数学テストリベンジ計画

3年 組 番 氏名

今回のテスト、学習を振り返って
○良かったこと

現在の私の数学力
○今学期

☆第3回総合テストで自分はどうなっていたい！

今後のテストまで、「新研究」をワークアップしよう！

期	元の計算	方法	時間	回数(計数)	目標・結果	教科活用
7月1日						
7月2日						
7月3日						
7月4日						
7月5日						
7月6日						
7月7日						
7月8日						
7月9日						
7月10日						

新研究P.11、53、108、109、166、167をやって自分の力を高めよう。

学習の振り返り、現在の状態、目指す目標を書き、その達成のために「新研究」にどう取り組むか、具体的な計画を記入します。

2校に共通する 「新研究」活用のポイントは

使い方を 具体的に示している

2校ともに共通していることの一つは、「新研究」をどう使うか、そのしくみや運用の仕方を、生徒に具体的に示していることです。

得意な生徒はどんどん進めてもらって構わないのですが、苦手な生徒は教材を渡して「1日〇ページやりなさい」と指示をしても、何も出来ずに終わってしまいます。何のために取り組むのか、いつまでに何を達成すればよいのか、達成するためにできることは何かまで、目に見える形で示すことで、生徒の納得度はアップし、モチベーションも高まります。



学習内容とテストが リンクしている

学習した内容がテストに出ることで、生徒は、自分が勉強したことが点数として反映されることの手応えや、勉強しておくことの重要性を、身をもって理解できます。

あらかじめ出題される内容や範囲が分かっているため、テスト対策はより効果的に作用し、生徒のやる気にもつながっていきます。また、テストのために「新研究」で勉強することは、そのまま入試対策の勉強にもなります。



何度も繰り返し 取り組んでいる

「新研究」は、教科の基本的な内容から実践的な内容まで効果的・効率的に学習できるように構成されています。入試問題に出題されるのは、教科のスタンダードな内容が中心なので、基礎・基本をしっかりとおさえておくことが必須です。

そのためには、多様な教材に手を伸ばさず、重要事項を何度も繰り返して学ぶことがポイントになります。さらに、繰り返すことで学習が積み上がり、生徒の自信の礎がつけられていきます。



新研究を使ったスケジュールを簡単に立てられる「学習スケジュール作成ファイル」を、新学社HPより提供しております！



「新研究」は基礎・基本から入試に対応する力まで、教科の総合力が身につきます。掲載する問題は最新の入試傾向を反映し、毎年改訂を行っています。

デジタルツールを 活用しよう

日々の指導にさまざまな工夫をこらしている垣内先生から、役立つデジタルツールをご紹介いただきました。

GeoGebra <https://www.geogebra.org/?lang=ja>

数学学習・教育用の無料のデジタルツール。授業教材やグラフ作成などに役立ちます。

GRAPES <https://tomodak.com/grapes/>

関数グラフのソフト。一次関数の理解に。

Google Jamboard https://edu.google.com/intl/ALL_jp/jamboard/

デジタルホワイトボード。考えを共有化できるので、同じ考えをもつ生徒とグルーピングすることも利点です。

*「Google Jamboard」は Google LLC の商標です。